



◀はしご車に搭乗する参加者。階の高さを体験しました。 3

まちと人を守る仕事を体験

夏休み期間中にまちの安全を守る消防署の仕事を体験してもらおうと7月20日、一日消防署体験学習を消防本部で開催しました。当日は小学生62人が参加。4班に分かれて、起震車や放水体験、はしご車搭乗体験などを行いました。ロープ渡り体験をした渡部智喜(小学3年生)くんは「高くてちょっと怖かったけど乗ってみたら、思ったより揺れなかった」と話してくれました。

体験中には、実際に救急搬送の依頼が入電。隊員が機敏に装備を装着し、駆け足で救急車に乗る姿を見て会場は静かに。まちと人を守る消防署の仕事の一端を垣間見ることになりました。



出迎え隊に感謝状

観光列車「あめつち」が運行一周年となるのを機に、JR西日本米子支社から「安来駅どじょうすくい出迎え隊」に感謝状が贈られました。同隊は毎週日曜日の午前、「あめつち」をはじめ「サンライズ出雲」や「やくも」などの到着時にどじょうすくい踊りの衣装でお出迎え活動に取り組んでいます。安来らしいおもてなしが観光客に好評で、記念写真に応じたり踊りを披露したりしています。

上田信也隊長は「この活動にゴールは無いけれど

たっんとぴっくす



まちの話題や出来事をご紹介します



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック(FB)」で公開しています。



安来庁舎南側の市民広場で行われた水鉄砲合戦。チームに分かれてお互いに頭に付けたポイを狙って水を掛け合っていました。(7月26日)

今月の一枚



◀この日(7月7日)も隊員の皆さんはホームや車内でおもてなし活動を行いました。

もこれからも続けていきたいです。安来をはじめ島根の観光のイメージアップにつながればうれしいです」と話していました。また、安来駅の清水久年駅長は「車内のお客さんからも非常に好評な取り組みです。社としてもこの活動に感謝したかったので今回、贈らせていただきました」と贈呈の理由をコメントしていました。

この日は特別に安来=松江間の「あめつち」に乗車。車内や松江駅で安来節やどじょうすくい踊りを披露しました。



◀竹杵プールで水遊びをする子どもたち。

大自然で楽しい授業

山佐の自然を楽しんでもらおうと「山奥の楽しい課外授業」が7月14日、山佐ダムキャンプ場周辺で開催されました。地元の有志で結成された「ヤマサクラブ」が企画するこの催しは今年で6回目。市内外から多くの家族連れが訪れ、竹遊具で遊んだり飲食を楽しんだりする人気のイベントとなっています。

今年は竹遊具の1つに竹杵プールが登場。この日は小雨が降る天気でしたが、子どもたちは歓声を上げながら水遊びを楽しんでいました。

プロ選手がプレーをクリニック

島根スサノオマジックのプロ選手が市内の小中学生にバスケットボールを指導する合同クリニックが、7月9日に市民体育館で開催されました。当日はミニバスチームや部に所属する100人の小中学生が参加しました。

クリニックでは、ドリブルやパス、シュートなどの基本動作やコツを選手たちがアドバイス。声をかけてもらったり手本を見たりしながら、参加者は4人のプロ選手たちから約90分にわたって指導を受けました。



◀クリニックの後は選手たちのサイン会も開かれました。



▶姿勢を正して集中する子どもたち。

夏休みにお寺で修行

夏休みの子どもたちに宇波で思い出をつくってもらおうと7月30日、「サマー寺子屋 in 宇波」が宇波交流センターで行われました。

この日は、子どもたちにいろいろな経験をしてほしいとの考えから座禅体験を企画。同交流センター近くの妙心寺に移動し、住職から座り方や手の組み方を教わった後、実際に座禅を体験しました。慣れない座り方に苦労しながらも子どもたちは最後まで集中していました。

松坂悠太郎くんは「座禅をしたのは3回目、今日は座布団を使わずにしました。足が痛かったけどがんばってできました」と話してくれました。

遊びを通して外国を知る

外国の遊びを通して異国への理解を深めようと7月30日、「みんなで人権を考える講座」を赤屋交流センターで開催しました。

はじめに、しまね国際センターの八嶋アーリーンさんと岩崎美保子さんがフィリピンとブラジルの文化を説明。参加者は国の場所や食文化、有名な都市などを学んだあと、両国で楽しまれている遊びを体験しました。言葉を使わない伝言ゲームやけまりのような遊びなど種類はさまざま。これを通して言葉を使わなくても外国の人と遊べることや、反対に言葉を使わずに物事を伝える難しさを体感しました。



▲数字を使った遊びは頭を使って楽しめます。